

【農業水利施設の魅力を知ってほしい(No.9);川崎の住宅街を流れる二ヶ領用水は見ごたえがある(2024年1月)】

農地基盤情報研究領域 地域防災グループ上級研究員 廣瀬裕一

神奈川県政令指定都市川崎市には、江戸時代に多摩川右岸において二ヶ領用水が整備された。現在ではほとんど田畑もなくなり、かんがい目的での利用はほぼ皆無となったが、周辺住民の水路沿いの散歩などで利用されている。今回は二ヶ領用水の2つある頭首工から途中の久地円筒分水工までを紹介する。

ところで、川崎市 HP (<https://www.city.kawasaki.jp/280/page/0000006392.html>) によれば、『全長 32 キロの二ヶ領用水の名は、旧稲毛領と川崎領の二ヶ領の農地に水を引くために江戸時代初めに建設された人工用水です。用水は慶長 16 (1611) 年に代官小泉次太夫によって完成しました。それまで、この二ヶ領は水利事情が不便で、水田工作による農業生産基盤が脆弱でした。二ヶ領用水完成により、米の収穫量が飛躍的に伸びたと伝えられています。(略) 現在も、市北部では農業用水として、あるいは、環境用水として利用されています。』とある。また、用水路沿いの案内看板によれば、a) 1599 年に徳川家康の命令により小泉次太夫が用水路の開削を開始し 1611 年に完成したこと、b) 二ヶ領とは用水路の受益地が稲毛領、川崎領の二つであることに由来すること、c) 1725 年から田中休愚によって再整備が行われ、上河原取水口堰樋や久地分量樋が設置されたこと等がわかる。

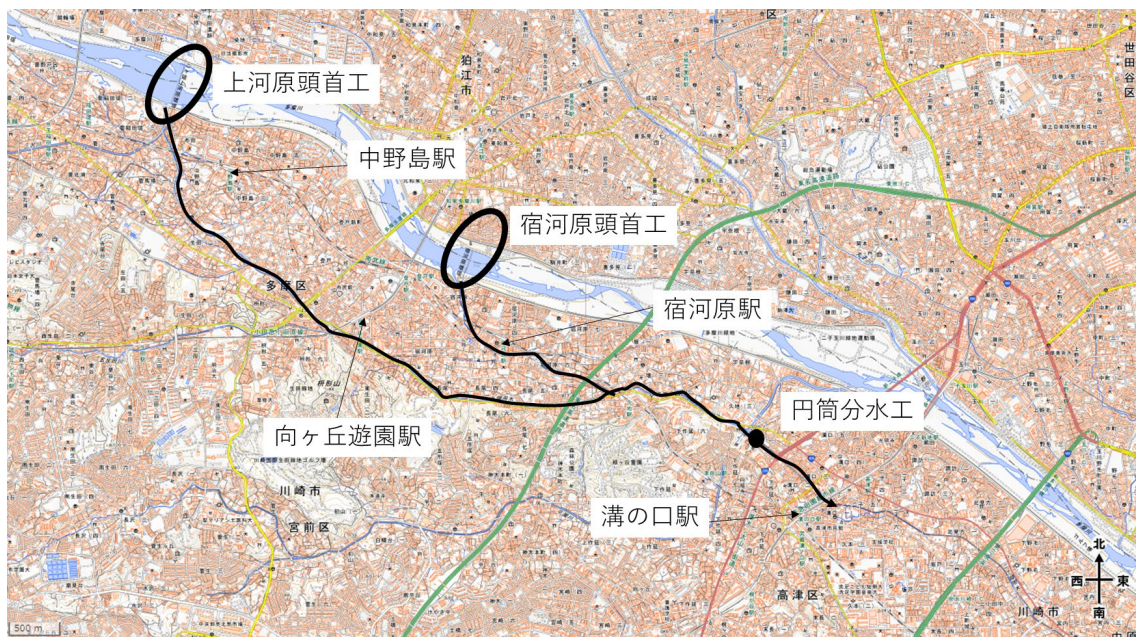


図1 紹介エリア

1. 上河原頭首工から小田急向ヶ丘遊園駅近くまで

上河原頭首工は JR 南武線中野島駅から徒歩 15 分程度の多摩川に設置される、二ヶ領用水の頭首工である。後述する宿河原頭首工とともに元々は蛇籠堰であったが、用水の不足等の問題により上河原堰は 1945 年、宿河原堰は 1949 年にコンクリート堰に再整備された。戦中、戦後間もない時期の工事であることから、二ヶ領用水が相当重要視される農業水利施設であったと推察する。

写真 1-A は上河原頭首工で、写真 1-B は頭首工から用水を取水した直後の様子である。ここから水路沿いに道路、歩道が整備され容易に用水路を散策することができる。水路の様子は例えば写真 1-C のような感じで、たまに取水ゲート（写真 1-D）もあることが、この水路が農業用水路であることを主張する。上河原頭首工から用水路沿いに小田急向ヶ丘遊園駅まで約 3.5km である。

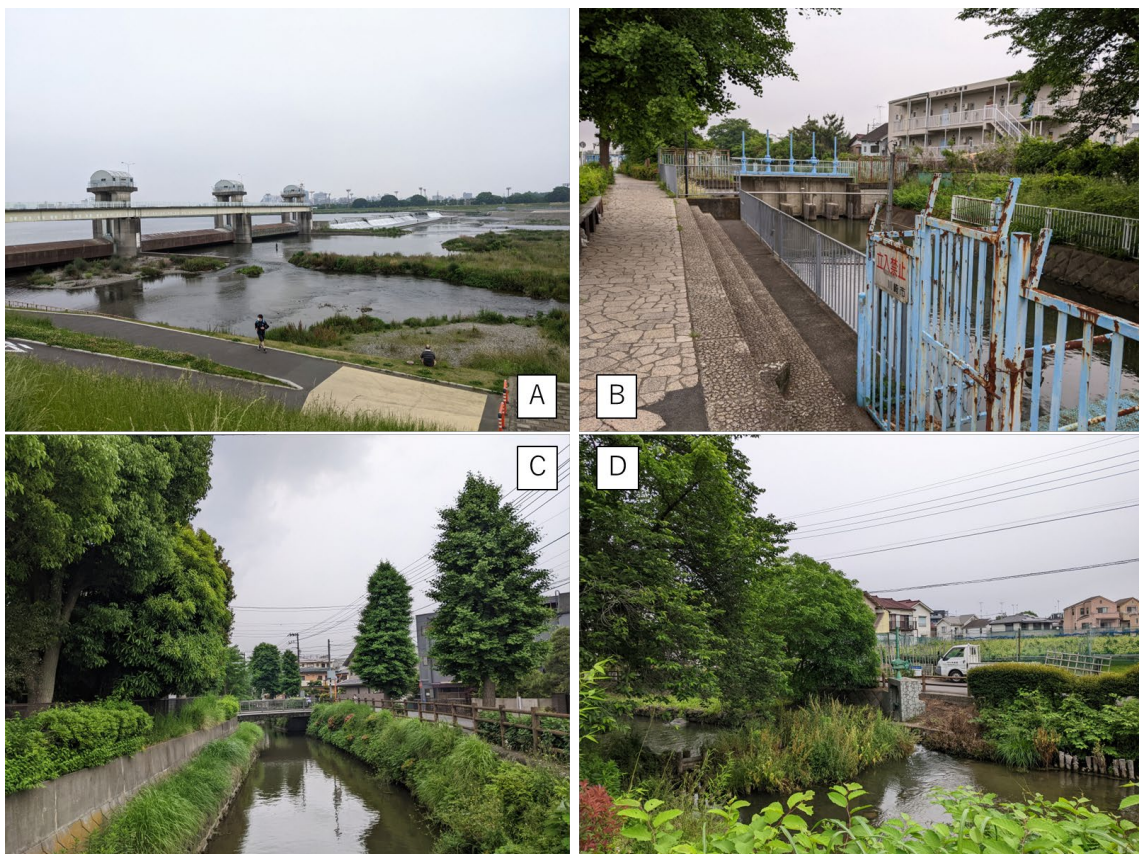


写真 1 上河原頭首工から小田急向ヶ丘遊園駅近くまで

2. 宿河原頭首工から JR 宿河原駅近くまで

宿河原頭首工は登戸駅から徒歩 10 分程度の場所にある。上河原頭首工と似た雰囲気の中水取水工（写真 2-A）であるが、こちらには二ヶ領せせらぎ館という多摩川と二ヶ領用水の情報を伝える施設がある。頭首工から取水された用水は写真 2-B のような場所を通過する。その後写真 2-C にあるように、おそらく上河原頭首工の受益地からの水路が合流し、写真 2-D の自転車置き場が見えると JR 宿河原駅である。登戸駅から宿河原頭首工を経由して宿河原駅まで 1.5km 程度である。

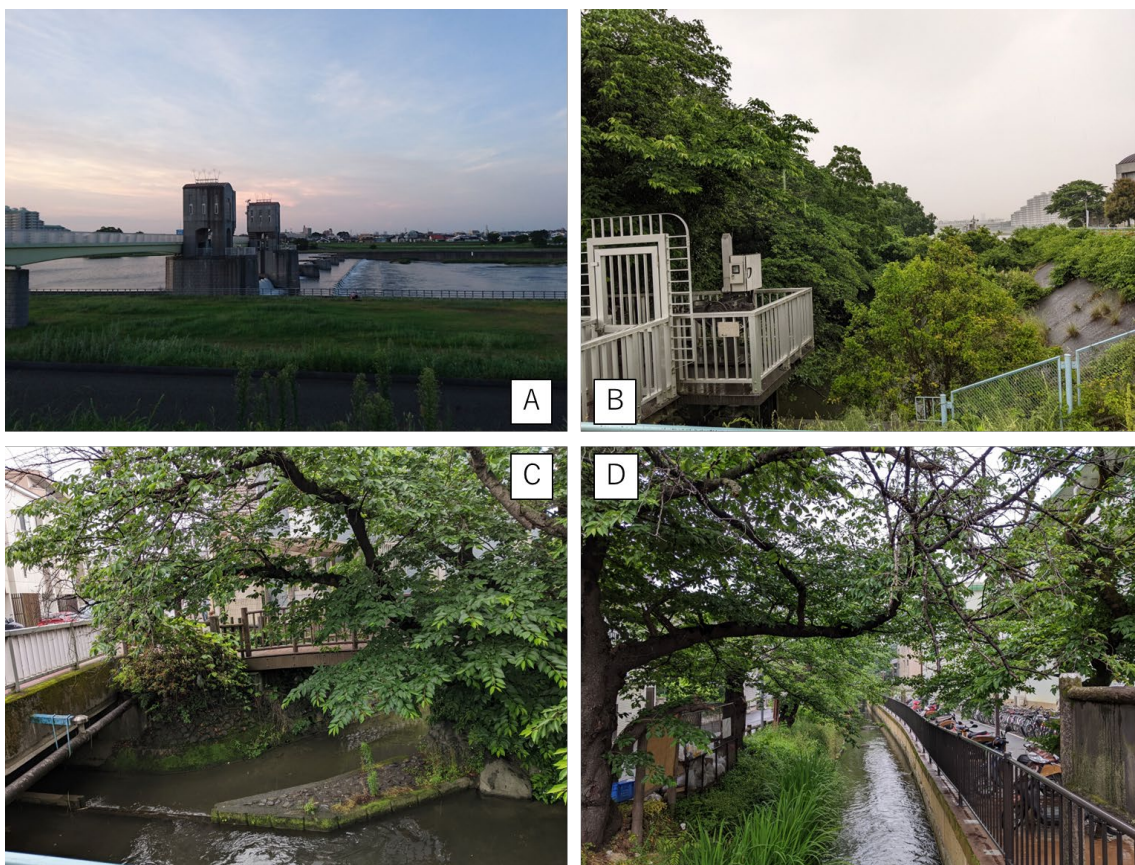


写真 2 宿河原頭首工から JR 宿河原駅近くまで

3. 久地円筒分水工から溝の口駅近くまで

前述したように、久地円筒分水工の前身となる久地分量樋（写真 3-A に跡地）は、川崎宿の名主である田中休愚が関係する。現在の円筒分水工（写真 3-C）は 1941 年に当時の多摩川右岸農業水利改良事業所（所長；平賀栄治）が、平瀬川の開削と二ヶ領用水の伏せ越し（写真 3-B）による水害防止と下流受益地への分水機能を久地分量樋から久地円筒分水工への変更を行った。

久地円筒分水工から下流側は、写真 3-D のような雰囲気である。久地円筒分水工へは J R 南武線津田山駅から 1.0km である。久地円筒分水工から水路沿いを歩いて溝の口駅までは 1.0km 強の距離である。



写真 3 久地円筒分水工から登戸駅近くまで

【余談】

川崎市の上流側にある東京都稲城市には大丸用水という用水路がある。稲城市は梨の産地で、大丸用水路沿いにも梨園があるので、そちらに足を延ばすこともおすすめである。JR 南武線南多摩駅から稲城長沼駅までの一駅間（約 2.0km）だけでも気持ちよく歩ける。



写真 4 大丸用水の雰囲気